



2026年・4月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 4月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <https://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

### ★アートスクエアに4Kサイネージ誕生！ 広報枠も開放！

三宮センター街2丁目の東入り口、生田筋交差点の「アートスクエア」に、最新の4K デジタルサイネージが設置されました。震災以降、私達が大切に守り続け、発展させている

「ストリートミュージアム」の想いを次世代へ繋いでいく意味で、街の新しい顔となる存在の誕生です。導入された55型の大画面は、屋外でも非常に明るく鮮明な映像を映し出します。ここでは商店街の情報だけではなく、公的機関や地域活動団体の広報、友好団体のPRなどを無償で放映する「地域広報枠」を取り入れて運用してまいります。活用の幅はまだまだ広がりそうなのですが、これからの研究課題です。現在は広報するデータの受け付けを進めております。先日も生田警察から特殊詐欺を防止する内容の動画をお預かりし、それを随時流しております。ハードは最新の機種ですので、高画質な動画や、静止画の放映が可能です。このサイネージは、アートと情報が交差する新たなコミュニティのシンボルとなりそうです。ぜひご覧になって下さい。



### ★隈研吾建築都市設計事務所スタッフ渡辺 傑氏 神戸三宮に来たる

2026年3月30日、西宮市市制100周年を記念して友好都市提携を結んでいる高知県梼原町から隈研吾さんデザインの木製ベンチが寄贈されました。隈研吾さんと言えば、2024年に三宮センター街2丁目商店街主催で開催された隈研吾氏の講演会は成功裡に終わり、多くの皆様に強い印象を残しました。当時、抽選になるほど観覧希望者が多く満席となり、大きく報道されたのでご記憶の方も多いと思います。また2丁目タイムズの読者の皆さんは「高知県梼原町」についてもよくご存知頂いていると思います。実はこのベンチが寄贈された日、隈研吾建築都市設計事務所のスタッフで、講演会でもお世話になった渡辺さんが西宮市での式典のあと、神戸三宮センター街2丁目まで足を運んで下さいました。1時間ほど、センター街2丁目を中心に街をご案内し、商店街事務所で意見交換をさせて頂きました。渡辺さんは学生時代に三宮で過ごされていたこともあるそうで、2丁目のセンターサウスにあるマザームーンカフェが、今も営業されていることに感激されていました。普段お仕事されている東京との違いや、神戸ならではの魅力、これからの街づくり、センター街の課題や三宮の再整備の様子など、さすが隈研吾氏のもとでお仕事をされている方なので鋭い視点で参考になる意見を沢山頂きました。三宮センター街で、隈さんや渡辺さんに直接関わって頂くのは先の話かもしれませんが、御縁を大切に、引き続き交流していきたいと思っております。渡辺さん、お忙しい中、本当にありがとうございました。

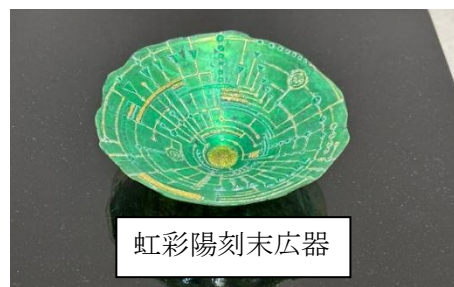


## ★松島 巖先生の岡山天満屋での作品

2023年、私達のストリートミュージアムに「古代からのバトン」を収蔵して頂いたガラス作家の松島 巖先生



が4月1日から6日まで岡山市にある百貨店、天満屋5階で「コアガラス展」を開かれていましたので、早速ご挨拶を兼ねて足を運んできました。先生の作品は以前ご紹介しました様に紀元前から伝わるコアガラスにより創作されています。そのため吹きガラス等では表現し難い繊細な立体表現も可能になっています。松島先生は古代オリエントを作品のイメージに取り入れておられ、そこに古来育



虹彩陽刻末広器

まれてきた日本の深い美意識からも折々に示唆をもらいながら作品を創られておられるそうです。松島先生とお話をしていますと突然、在原業平の和歌『晴るる夜の 星か川辺の 蛍かも わが住む方の 海人の焚く火か』（伊勢物語 87段に出てくる歌で、芦屋の里の方向にある漁火と分かっているながら、明滅するその光を夜空の星や川辺の蛍にみたとて、凝ってみせています）が突然出てきて、自分の知識の無さもあり慌ててしまいます。それはともかく、松島先生の作品はどれを観ても発色が大変美しく、古代オリエントのオマージュとして「太陽」、「ナツメヤシ」、「山羊」がデザインされているようでじっと見入ってしまいます（間違っていたらゴメンナサイ）。皆様も今一度、私達の街に収蔵されている「古代からのバトン」をじっくりご覧になってください。そこには様々な松島先生のイメージが込められているのが見えてきますよ。



箔マーブル文蓋物

## ★編集後記

松島 巖先生のコアガラス展を岡山の百貨店天満屋で観た後、倉敷に足を延ばし、倉敷の美観地区の春を楽し



んで来ました。春の桜の美しさに酔いながら、その桜の下、ウェディング姿で挙式の記念写真を撮っている二人とそのご家族、実に和やかな素敵な時間でした。そして国指定重要文化財である旧大原家住宅を拝見してきました。大原家の歴史は約300年前、倉敷に出てきた初代忠則に遡ります。以降、倉敷の地で繰綿の仲買業、米問屋等を営みながら豪商、大地主へと成長していきました。



近代になると6代幸四郎（1833～1910）が倉敷紡績（株）を、7代孫三郎（1880～1943）は（株）クラレを設立し、大原美術館も建てられました。旧大原邸に入れば直ぐ目にするのが5代壮平、6代孝四郎、7代孫三郎、8代総一郎が語った言葉です。「感情を出発点とした政策には賛同できない」、「いはゆる安全の道は進歩も工夫もないものである」などなど多くの名言が天井から吊るされています。昨年タイムズ12月号でご紹介した関西電力初代社長、太田垣士郎氏の残した名言とも通じていると感じました。何かを成し遂げるには当然ながらこういった強い信念が必要なのだと反省しながら神戸に帰って来ました。



美しい街 共に歩む

ビルメンテナンスつるかめ管財株式会社 078-371-3589

